

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 2月 26日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部 大学院 総合政策 科学研究科	教授	関根 千佳
研 究 題 目	ソーシャルイノベーションを推進するための、ユニバーサルデザインとジェロントロジーの研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>オリンピック・パラリンピックを控え、日本でもようやくユニバーサルデザインやアクセシビリティの必要性が認識されはじめた。しかし、未だに京都など、関西圏ではその認識は薄い。この2年間の研究では、社会の要請であるユニバーサルデザインをどのように広め、実効性のあるものとするかに焦点を当てた。</p> <ul style="list-style-type: none">・学部のアカデミック・スキルの授業では、これまで数年間進めてきた京都府のパーキングパーミット制度から、この2015年度には「京都において観光のユニバーサルデザインをどう進めるか」を研究した。春秋とも京都府庁の職員や企業の社員が多数訪れ、「逆インターンシップ」としてリアルな課題を学生たちと解いていく試みを続けた。府庁での課長他ほか多くの企業委員へのプレゼンでは大変素晴らしい評価を得た。最終版の「京都おもてなし手帖」は、2016年3月に印刷配布される予定である。・同じく学部授業である政策トピックスにおいては、ジェロントロジーの基礎から今後の高齢社会の在り方を考えることに進んでいるが、今年も介護経験の長い総合政策の院生などが授業に参加してくれて、非常に内容の濃い議論が展開された。三菱総研の松田研究員の特別講義には会場に入りきれないほどの社会人が詰めかけた。・院のソーシャルビジネスの講義でも「逆インターンシップ」を取り入れ、今年は政策金融公庫のスタッフが毎週3名訪れて、社会企業を財政的に支援するにはどうすればよいか議論と提案を行った。公庫での実践につながっている。・障害者差別解消法の2016年4月1日施行に伴い、各大学での支援と合理的配慮の提供に対する研究も始めている。2016年度からは大学コンソーシアム京都の指定調査課題に京都大学・京都産業大と共に提案を行い、4月から研究を開始する予定である。 <p>主な論文・出版</p> <ul style="list-style-type: none">【西日本新聞 提論】1200字で政策提言を行う記事を連載中 (3, 6, 9, 11月)【毎日新聞】ジェロントロジーに対する提言を寄稿 (2015年11月2日)【堺市広報】2015年12月教育委員会発行の市民向け冊子に寄稿【市政】2015年12月 全国市長会館発行 市長や市役所職員向け雑誌の巻頭記事を寄稿【同志社社会福祉学】29号 2015年12月 基調講演を論文として掲載	